



しゅりゅしゅまぢ



## 新町議誕生

よろしくお願ひします。

# 議会だより

# 8

2006年 No.1

平成18年8月1日発行

(創刊号)

- 審議議案 …………… P2~4
- 施政方針をただす …………… P5~9  
小豆島町総合計画について など  
17名が活発な質問

■発行/小豆島町議会 ■編集/小豆島町議会広報編集委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108

# 小豆島町初議会 町民の期待を背に18名

議長に中村勝利氏 副議長に秋長正幸氏

本年3月21日に内海町と池田町が合併「小豆島町」が誕生しました。4月23日に町長選挙・町議会議員選挙が行われ、新しく18名の議員が選ばれました。5月11日に臨時会（初議会）を開催し、正副議長や各常任委員会・議会運営委員会・議会広報編集委員会などの各委員、議会選出監査委員が選ばれ、新しい議会の運営について協議しました。また、9件の専決処分を承認、13件の人事案件に同意しました。  
（なお、人事案件及び議会構成は広報6月号に掲載しています。）

## 議長就任のあいさつ

議長 中村勝利



このたび、小豆島町議会の議長に就任を致しました。2町合併による小豆島町議会の議長として、責任

の重さを感じております。今回の合併は、厳しい財政状況のなか合併により、安定した財政基盤と、町民の要望に応えられる行政組織が求められております。新しい小豆島町のまちづくりとして、少子高齢化対策、学校教育、観光、地場産業、商工業、農林水産業の振興など、取り組まなければならぬ多くの課題があります。これらを進めていくには、早く旧池田町、旧内海町の垣根を取り払

## 副議長就任のあいさつ

副議長 秋長正幸



副議長の選出選挙におきまして、ご推挙をいただき

深く感謝申し上げます。大変光栄に思うと同時に、その責任の重さを痛感いたしております。急速な少子高齢化や地方分権の流れの中、魅力ある小豆島町として、大きく飛躍発展していくため努力していきたいと思っております。皆さま方のご意見を賜りながら議長を補佐し、議会の権威の向上、円滑な運営

い、新生小豆島町として、しっかりとした基礎づくりをしなければなりません。それには町民から選ばれた住民代表である町議会議員が、住民の声、ご意見を十分にお聞きし、開かれた議会にする事だと思っております。町民の皆さまから、合併をしてよかったといわれる、小豆島町をめざします。小豆島町議会に対し、町民の皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

に誠心誠意尽くしてまいります。どうぞ、皆さま方の格別なご指導とご支援をいただきますよう心からお願ひ申し上げます。

## 審議した主な議案

- ・小豆島町議会議事規則
- ・小豆島町議会委員会条例
- ・小豆島町議会議務局設置条例
- ・地方自治法第一八〇条第一項の規定による小豆島町長専決処分指定事項について
- ・小豆島町収入役事務兼掌条例
- ・収入役を置かず助役がその事務を兼掌するものです。
- ・平成18年度小豆島町暫定予算
- ・平成18年4月から7月までの主に経常的経費を中心とした予算で一般会計ほか10会計
- ・公平委員会事務の香川県への委託について
- ・合併に伴う字の名称及び区域の変更について
- ・内海町土地開発公社定款の一部改正について
- ・小豆島町の公金の出納事務を取り扱わせる金融機関の指定について
- ・香川県農業協同組合が指定金融機関に指定されました。
- ・小豆島町特別会計条例の一部改正ほか7条例の改正

## 専決処分の承認

- ・小豆島町条例制定
- ・小豆島町役場の位置を定める条例ほか158条例の制定
- ・平成17年度小豆島町予算
- ・平成18年3月21日から3月31日までの11日間の予算で一般会計ほか12会計

審議した主な議案

平成18年度予算・意見をつけて可決

平成18年度の町政を方向づける第1回定例会(6月議会)は6月20日から7月11日までの22日間の会期で開き、本会議1日目は、町長から平成18年度の施政方針をはじめ、各会計予算や条例など14議案が提案されました。本会議2日目(6月26日)は、町長の施政方針に対する質問、答弁が行われ条例制定1件、報告2件を審議可決し、人権擁護委員を推せんすることに同意しました。本会議最終日(7月11日)は、付託議案の採決、追加議案として小豆島町過疎地域自立促進計画のほか、議員発議による条例の一部改正、特別委員会の設置が提案され、すべて原案どおり可決しました。

新年度の予算11件は総務、教育民生、建設経済の各常任委員会に付託して、延べ5日間にわたって審議しました。

その結果、一般会計予算、特別会計予算、事業会計予算について、次のような意見を見つけ、賛成多数で原案どおり可決しました。

○農林水産課

オリーブ振興について、苗木の助成や遊休農地などの整備事業により、これまでに栽培面積、植栽本数の

増加がはかられたことは評価できるが、今後において、収穫量の安定確保、販売など地域にあった体制を確立し、広がりのある事業の推進を目指してほしい。

○建設課

国道436号で、朝夕のラッシュ時に交通渋滞の発生箇所を多く見かける。小豆総合事務所に要望するなど、解消に向けた対策を検討されたい。

○商工観光課

各種団体などに対する負担金、補助金は費用対効果のある支出をはかられた

平成18年度一般会計・特別会計・企業会計予算

(単位：千円)

会計区分		本年度予算額
一般	一般会計	7,703,000
特別会計	国民健康保険事業特別会計	1,966,073
	国民健康保険診療所事業特別会計	52,253
	老人保険事業特別会計	2,950,792
	介護保険事業特別会計	1,329,527
	介護サービス事業特別会計	85,515
	介護予防支援事業特別会計	6,149
	簡易水道事業特別会計	30,952
	計	6,421,261
企業会計	水道事業会計	460,737
	病院事業会計	3,186,904
	介護老人保健施設事業会計	313,851
	計	3,961,492
合計	18,085,753	



6月定例会

○学校教育課

幼児・学校教育の充実をはかるうえで、教育施設の再編計画が検討、研究されているが、新町で実施しようとする内容などは、議会と意見調整をはかり、総合計画を策定するなど、効率的な運営をめざし取り組みたい。

○総括

①新生小豆島町の運営は「内海町と池田町の融和と一体的な発展」をのぞむものである。

そのためには、地域間の相違点を確認し、よりよい共通目的に向かって努力していただきたい。

②三位一体改革による国庫負担金補助金などの減額や廃止に加え、人口と面積を基本に配分となる新型交付税の導入が議論されている。財源不足は一段と厳しさを増すものと思われる中、大幅な財源不足にならないよう、交付税の仕組みなどを的確に把握し、将来にわたる健全な財政運営をはかってほしい。

## 窓口支払いの必要がなくなる乳幼児医療費

現在、病院の窓口で医療費を支払い、後で医療費立替分が預金口座に振り込まれていますが、小豆郡内の病院ではその立替払いの必要がなくなるものです。

なお、施行日は本年11月1日からです。

また、この条例の一部改正は、議員の提案によるものです。

人権擁護委員に

平井美恵子氏を推薦



平井美恵子氏

現人権擁護委員の明田隆雄氏が、公的職務に就任したため、人権擁護委員としての職務遂行に支障をきたすことが思慮されるため、後任として平井美恵子氏を推薦することに同意しました。

なお、人権擁護委員は次の方々です。

- 森川 桂輔氏 (西村)
- 竹本 郁子氏 (安田)
- 三木 良榮氏 (苗羽)
- 佃 豊年氏 (福田)
- 岡 修氏 (室生)
- 森口 祐三氏 (蒲野)

小豆島町障害程度区分認定審査委員会の定数を定める条例を制定

障害者自立支援法の規定により、小豆島町障害程度区分認定審査会の設置に伴

い、委員の定数を定めるものです。

なお委員は、障害者などの保健又は福祉に関する学識経験者（医師、理学・作業療法士、介護福祉士、身体・知的障害者相談員）で10名です。

### 過疎地域自立

#### 促進計画策定

本年3月21日の合併による法人格の消滅に伴い、小豆島町としての過疎地域自立促進計画を策定しました。

なお、本計画は旧内海町、旧池田町とも過疎団体であったため、両町の計画を合冊し、一部修正した計画となっております。

### 特別委員会を設置

町が取り組んでいる諸施策の審査・調査などについては、常任委員会や議会運営委員会で行っています。特に重要な施策については、特別委員会を設置して、審査・調査などができるとなっています。小豆島

町議会では、今回二つの特別委員会を設置しました。

#### ○内海ダム特別委員会

内海ダム再開発事業に関すること。

- 委員長 秋長 正幸
- 副委員長 谷 清
- 委員 藤本 傳夫

- 井上喜代文
- 植松勝太郎
- 新茶 善昭
- 中江 正
- 浜口 勇

#### ○交通問題特別委員会

陸上、海上を合わせた交通問題に関すること。

- 委員長 山中 彰
- 副委員長 藤井 源詞
- 委員 森口 久士
- 森 崇
- 新名 教男
- 安井 信之
- 渡辺 慧
- 中村 勝利



小豆島町土砂災害30周年行事 勢ぞろいした小豆島町消防団 (小豆島ふるさと村)

# 新生小豆島町スタート

# 施政方針をただす

6月定例会第1日は、坂下町長から小豆島町の  
出発となる平成18年度の施政方針の説明があり、  
第2日はこれに対する質問を17人の議員が行いま  
した。

2町の融和をはじめ、小豆島町総合計画策定、  
オリーブの振興、内海中学校建設、防災対策など  
の質問の中から、主なものを5つの柱にしたがっ  
てまとめました。

## 誰もが元気で健やかに暮らせる

### 健康・福祉のまちづくり



森口久士 議員

森口議員 内海病院産婦人科医師の確保は大丈夫か。

答弁 全国的に産科と小児科医師の不足は深刻な状況です。香川大学医学部の深い理解と、副院長で担当医自身の地域医療への積極的な取り組み姿勢が大きいと考ええます。今後、医師確保



新茶善昭 議員

新茶議員 医療体制の強化と医療機器整備について。

答弁 電子カルテ導入により、チーム医療の確立や安全性、質の向上、保管スベ

は、行政と議会が一体で取り組む課題と認識しています。

1スの減少などが考えられます。オーダーリングシステムと医事会計とを連結することにより、処方から調剤、会計まで処理され、待ち時間が短縮されます。



私の順番はまだかな（内海病院）



渡辺 慧 議員

渡辺議員 障害者基本法や自立支援法の施行への取り組みは。

答弁 新たなサービス体系に向けて、7月頃から障害程度の認定調査を行います。市町村認定審査会の障害程度区分の決定により、町がサービスの支給決定を行います。

浜口議員 独身生活者が多いがその対策は。

答弁 結婚をしていない若者や離婚し独身生活をしている若者が増えている状況が見受けられますが、これといった対策はない現状です。

国は「新しい少子化対策について(案)」を策定し、妊娠、出産から大学生になるまで子どもの成長に合わせた新たな少子化対策が定められ、平成19年度予算編成で検討するとしています。



中江 正 議員

中江議員 旧池田町実施の福祉バスサービスを全町で考えてみてはどうか。

答弁 福祉バス、町営バス、定期バスを含めて町全域で公共バスが運行されているものと考えます。

福祉バス運行には定期バス路線がないことが前提になりますので、現状でご理解いただきたいと思います。

心豊かな人を育む  
教育・文化のまちづくり



谷 清 議員

谷議員 内中全面改築に向けた近隣対策の取り組みは。

答弁 平成18・19年度で校舎、平成20年度に屋内運動場建築を予定しています。

近隣の皆さま方には工事期間中の騒音、振動、車輛の通行に対し、できる限りこの影響の軽減に努めながら進めたいと考えていますのでご理解ご協力をお願いします。



安井 信之 議員

安井議員 教育施設の再編統合計画について。

答弁 旧池田町は再編整備を終えており、旧内海町では第1段階として複式学級の対象校の統合を進め、4校を3校に、次はこの3校を1校にとの答申がでておりますが、早い段階で対象となる学校区域の皆さまと協議を進めたいと思っております。

中江議員 認定こども園の一定の機能を備える施設とは。

答弁 就学前の子どもに教育、保育を提供する機能と地域における子育て支援を行う機能。

この2つを備える施設については県知事から「認定こども園」として認定を受けることとなります。



オリーブの冠を授けられた優勝者



幼保一体の小豆島こどもセンター（蒲生）



井上喜代文 議員

井上議員 合併記念スポーツイベントの「チャレンジ教室」とは。

答弁 日本初のプロ野球独立リーグ「四国アイランドリーグ」のコミッシヨナー石毛宏典氏を招いての野球教室です。香川オリーブガイナーズ関係者と町内少年野球チーム参加のもと10月に開催する予定です。



おいしくいただきます（安田小学校）



植松勝太郎 議員

植松議員 給食の食べ残しで、精神衛生や肉体的上の問題点が指摘されているが。

答弁 社会生活の変化などにより、食に起因する健康問題が増えています。幼稚園、小・中学校でも指導し、食べ残しについても調査をしております。中学校に比べ小学校が、やや多い傾向にあります。

豊かな自然環境と共生する快適で  
安全な生活環境のまちづくり



森 崇 議員

森議員 戦後最大の高潮被害は人、財産、生産拠点を襲った。新町建設計画の「災害に強いまちづくり」の高潮対策を実行すべきだ。

あるつど財政の許す範囲で、できる限りの対応をしていきます。

森口議員 防災行政無線の整備についての考えは。

答弁 本年度に基本計画と実施計画を策定、19・20年度で整備を行う予定です。全戸に個別受信機を設置する計画です。今後、自治会などの意見も聞き「デジタル化」のメリットを生かし、多機能な設備の検討をします。

新茶議員 草壁地区埋立の現況とトイレ設置について

答弁 埋立土砂搬入率は約66%で、計画より遅れています。埋立地の利用計画の中でトイレ設置は、かなり遅い建設となるので、地元自治会とも相談し建設位置の変更も含めた早期建設も検討していきたいと考えています。

渡辺議員 高潮対策は、地区によって町単独事業も必要では。  
答弁 植松都市下水路再整備事業に向けての準備に着手します。また、フラップゲートの修繕なども要請が



今も置かれている「土のう」(草壁本町)



いつでもできるの公衆トイレ

答弁 経営面は、どの施設も小規模、給水人口が減少傾向など、現行料金体系での経営は一層厳しい状態になると見込んでいます。将来的には、簡易水道施設間での統合、上水道事業への統合は避けて通れないと考えています。

安井議員 原材料支給制度について。

答弁 里道、水路、未舗装の町道が対象で、生コン・アスファルトを支給し、施工は地元住民の勤労奉仕によるものとしています。土地改良区においても実施していますが、今年度は昨年度の未施工箇所を配分したいと考えています。



山中 彰 議員

山中議員 簡易水道事業から上水道事業への移行は。



鍋谷真由美 議員

鍋谷議員 内海ダム再開発には、反対地権者の買収困難用地や、落合(落矢)池底地の売り払い問題での住民監査請求もあり、旧池田住民には知らされていないなど問題がある。事業推進



再開発される内海ダム

するのはどうか。

答弁 ご理解ご賛同いただけない方も一部おられることは承知してはいますが、ご理解を得られるよう努力しています。内海ダム再開発ニュースなどの全戸配布を行っています。



秋長正幸 議員

秋長議員 内海ダム再開発18年度の事業内容は。

答弁 予算額5億1880万円、県道、町道のつかけ工事、事業用地取得(現在約85%)、かんかけ配水地、墓地移転などを予定しています。

# 魅力と活力にあふれた 観光・産業振興のまちづくり



村上久美 議員

村上議員 商工業の振興について、質的サービスの向上、地元商店の振興策は。

答弁 商工会合併後、エキスパート派遣事業、共同売出しの実施、シニアアドバイザー事業などに取り組んでいます。商業協同組合も合併し、ポイント10倍セールや、温泉入浴券を割安に購入できる制度、内海病院への支払いも商品券でできるなど行政もタイアップしています。

植松議員 映画村「キネマの庵(いおり)」の建設にともない観光客の増加が予想される中、田浦漁港の改修計画はどうなっているのか。

答弁 田浦分教場と映画村へのアクセス道路として全

線二車線化をめざし、田浦漁港付近の県道拡幅をはかる県の補償工事としての改修計画です。本年度において概略設計を行います。



改修が望まれる田浦漁港

藤本議員 農業振興の具体的な方策は。

答弁 「中山間地域直接支払制度」を実施し、平成19年度からの「農地・水・環境保全向上対策」に取り組みます。農地の利用集積、地域農業者の集団化を推進



浜口 勇 議員

浜口議員 坂手、阪神間の航路再開は。

答弁 阪神航路の重要性は認識しておりますが、利用者があつてこそ存続できるという基本前提です。今後

するとともに、花卉栽培を中心とした施設園芸やオリブなどの各生産者部会に助成を行います。



阪神航路再開が待たれる坂手港

も鋭意、調査研究に努めていきます。

秋長議員 オリブ振興、搾油工場は、どうなるのか。

答弁 平成10年度より、荒廃農地の整備、苗木配布助成を実施、面積約11haと増反、18、19年度にかけ、オリブ公園内に加工場建設の計画を進めてきましたが、収穫量の安定確保に不安があり今回は見送り、今後はオリブ百周年プロジェクトチーム内で再検討し、平成20年に着手をめざします。



藤本 傳 夫 議員

藤本議員 小豆島オリブ公園、小豆島ふるさと村の経営状況と今後の方針は。

答弁 両施設とも小豆島に



オリブ公園イベント広場

おける重要な体験型・滞在型観光施設であり、相互連携をはかり集客力の向上に努めます。今年度から両財団とも指定管理者として施設の管理を行うことで、より効果的な運営を目指します。また、収支の改善に努めます。



町民一人ひとりが主体的に

取り組むまちづくり



新名教男 議員

新名議員 今後予定されている「小豆島町総合計画」に地中海イメージの西村オリブビーチを中心とした「海」の資源をどのように活用しようとしているのか。

答弁 オリブ公園や映画村に加え、先日「海の駅」に登録された小豆島ふるさと村も含め、三都半島を視野に入れた観光エリアの設定が必要であります。今後、総合計画を策定する中で海の活用策について検討します。

谷議員 住民活動組織の育成、支援、自治会に対する助成制度とは。

答弁 本年度は自主防災組織の育成に対する経費を盛り込み、その使い道について



オリブビーチをのぞむ

ては自治会の裁量に委ねることにより、自由度が高く、効率的な制度とする予定です。

村上議員 旧内海町、池田町の融和は、どのようにしてはかられるのか。

答弁 一定の目標を定め、各種事業を開催する中で、相互理解が深まることへ期待します。「オリブ」を軸に施策展開をはかり、同じ価値観を共有することで一体感が醸成されるものと考えています。

井上議員 本年度の合併特例債の充当と、トータルの特例債額は。

答弁 本年度は内海中学校改築及び「オリブナビ小豆島」整備財源として2億9400万円を充当予定で

す。特例債発行可能総額は56億1000万です。元利償還額の70%が交付税措置されますが極力重点事業に限定し、有効に活用したい。

山中議員 研修センター設置に伴う職員研修の実施計画は。

答弁 今年度の計画は、昨年までの運営方式により策定されています。5月から順次実施し、本町も7月までに12名を受講させる予定です。地方分権時代に対応できる優秀な職員の育成に取り組めます。



藤井源詞 議員

藤井議員 新町になったの職員の配置表を広報で周知することはできないか。

答弁 10月を目途に再度、組織調整の人事を行い、職員配置を固めるつもりです。その段階で広報誌を通じて、皆さまにお知らせできるように検討いたします。

森議員 財政逼迫（ひつぱく）の主要因は法人税の落ち込みと地方交付税の削減だ。公務員を減らすのは解決にならない。

世界に比べても日本の公務員数は半分以下だ。



池田庁舎

答弁 職員数の削減は合併効果の一つであり、総人件費の抑制はどうしても必要です。労使の共通認識を持つことが何より重要だと思います。

答弁 同和問題がすべて解決したわけではなく、自動車免許取得補助などを実施継続し、経済的自立支援をはかりたいと考えています。

銅谷議員 基本的流れである同和行政終結に逆行して、同和事業を継続実施することは問題だと考えるがどうか。

# 議会日誌

## 5 月

- 11 第1回臨時議会（初議会）
- 23~24 第31回全国町村議会議長研修会 （東京都）
- 25 小豆島町戦没者追悼式 （池田地区）
- 28 小豆島オリープマラソン全国大会
- 29 小豆地区広域行政事務組合臨時会 （土庄町）
- 〃 土庄町小豆島町環境衛生組合臨時会 （土庄町）
- 〃 伝法川防災溜池事業組合臨時会 （土庄町）

## 6 月

- 2 香川県町村議会議長会定例会 （高松市）
- 5 議員懇談会
- 6 小豆郡議長会 （土庄町）
- 13 町議会運営委員会（6月定例会第1日・第2日目の運営）
- 20 第1回定例会（第1日目）
- 〃 全員協議会  
（過疎地域自立促進計画・小豆島土砂災害30周年行事について）
- 〃 議会広報編集委員会【第1号（創刊号）の編集】
- 23 壺井栄賞授賞式
- 26 第1回定例会（第2日目）
- 〃 議会広報編集委員会【第1号（創刊号）の編集】
- 27 教育民生常任委員会（付託議案審査）
- 28 建設経済常任委員会（付託議案審査）
- 29 総務常任委員会（付託議案審査）
- 30 教育民生常任委員会（付託議案審査）

## 7 月

- 3 総務常任委員会（付託議案審査とまとめ）
- 〃 議会広報編集委員会【第1号（創刊号）の編集】
- 4 町議会運営委員会（6月定例会第3日目の運営）
- 5 町議会町内公共施設視察
- 9 小豆島土砂災害30周年行事（小豆島ふるさと村）
- 11 第1回定例会（第3日目）・議員懇談会
- 〃 議会広報編集委員会【第1号（創刊号）の編集】
- 18 議会広報編集委員会【第1号（創刊号）の編集】
- 25 第2回臨時会・議員懇談会
- 26 香川県広報発行町議会連絡協議会総会及び研修会 （高松市）

### 議会広報編集委員



森口委員 藤本委員 森委員  
渡辺委員 秋長委員長 谷副委員長 鍋谷委員

## 住民の声



### 『むすび』

小豆島町自治連合会 会長 森 福守（馬木）

皆さんの中で「いつけ」と言う言葉を使ったり、聞いた方方はおられますか。「あの家と自分の家はいつけだ」と云った風に子どもの頃よく使ったものです。多分親戚の事だろうと感じてはいましたが、後で辞書を開いてみると、いつけ「一家」即ち一つの家族、血縁又は婚姻などによる親族と云う意味が書かれています。

さて、今回の合併を結婚に例える人がいる。生まれも育ちもまったく違う二人がお互いを信じ認めあつて夫婦となる。片やそれぞれ永い歴史の中で培われた文化や伝統、その違いを乗り越えての合併とは相通する処があり、まさに池田と内海とは「いつけ」に成つたと私は思っています。がしかし、出だしは似通つていますが、夫婦には、大きな違いが一つあります。夫婦には、相性や価値観の相違を理由に離婚と云う手段を取る事も可能だが、自治体は如何なる理

### 編集後記

新しい小豆島町がスタートし、議会だより「しょうどしま町」第1号をやつとの思いで発行することができました。気ぜわしく、切実な期限に追われながら、事務局の方々に大変お世話になり、創刊号発行の運びとなり感無量です。

今回の6月定例会は、合併後第1回の定例会であり、坂下町長の施政方針及

び予算審議など22日間の会期でした。施政方針への質疑応答は、議員全員が行い、大変活発な議論が行われ、住民の期待に沿うものでした。

議会だよりは年4回発行を計画しています。町民の皆さまに親しまれる議会だよりになるよう一生懸命努力いたしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

秋長正幸記